

宮澤賢治が学んだ鉱物標本

<青木正博¹⁾・加藤碩一¹⁾>

盛岡高等農林学校では、大正年間に内外の鉱物組標本と岩石組標本を購入しています。土壤学を教える関豊太郎教授が、土壤の発達と地質との関係に関心が深かったためです。鉱物組標本の製造元は、ドイツのクラッツ社（75種／1911年購入）、島津製作所標本部（90種／1915年購入、180種／1920年購入）、教育品製造合名会社（150種／1906年購入）、同文館（180種／1906年購入）などです。宮澤賢治が高等農林に入学したのが1915年、同研究科を終了したのが1920年。宮澤賢治は、購入されたばかりで傷みのない標本を間近に見ることを許されました。宮澤賢治の文学作品にはしばしば鉱物の色調や質感に関する表現が登場しますが、賢治は実物標本の観察を通して作品のインスピレーションを蓄えていったものと思われます。幸いにも、これらの標本は長い年月を経た今日もなお、岩手大学農業教育資料館（重要文化財 旧盛岡高等農林学校本館）に保管されています。

今回、「温故知新：宮澤賢治作品における「鉱物性色彩語」考」（加藤碩一、本号掲載）にリンクさせて、賢治が学んだ鉱物・岩石標本の一端を紹介します。標本画像は鉱物の化学組成による系統分類に則って、元素鉱物、硫化鉱物、ハロゲン化鉱物、酸化鉱物、炭酸塩鉱物、硫酸塩鉱物、珪酸塩鉱物および岩石（黒曜石と褐炭）の順に配列してあります。ここでは鉱物の色合いに焦点を当てているので写真のスケールは割愛しますが、写真幅は2～5cmに相当しています。



1 硫黄.



2 オスミリジウム（白金族）.



3 自然金.



4 輝コバルト鉱.



5 閃亜鉛鉱.



6 鶏冠石.

1) 産総研 地質調査総合センター名誉リサーチャー

AOKI Masahiro and KATO Hirokazu (2015) Kenji Miyazawa's beloved minerals.



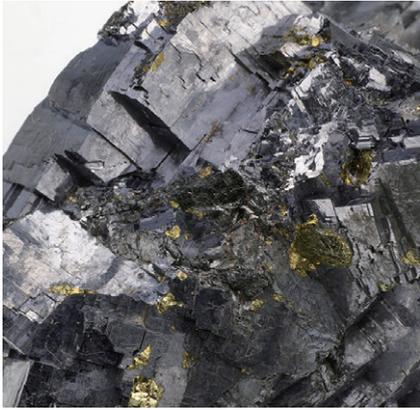
7 石黄.



8 輝水鉛鋅.



9 辰砂.



10 方鉛鋅.



11 螢石.



12 磁鉄鋅.



13 褐鉄鋅.



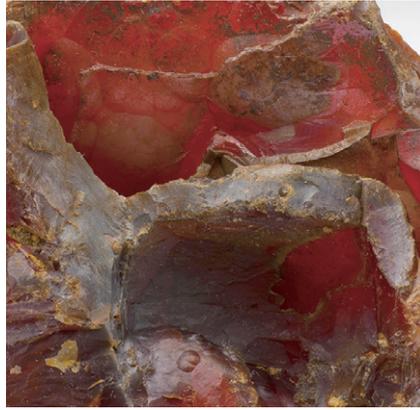
14 紫水晶.



15 紅石英.



16 瑪瑙.



17 紅玉髓.



18 綠玉髓.



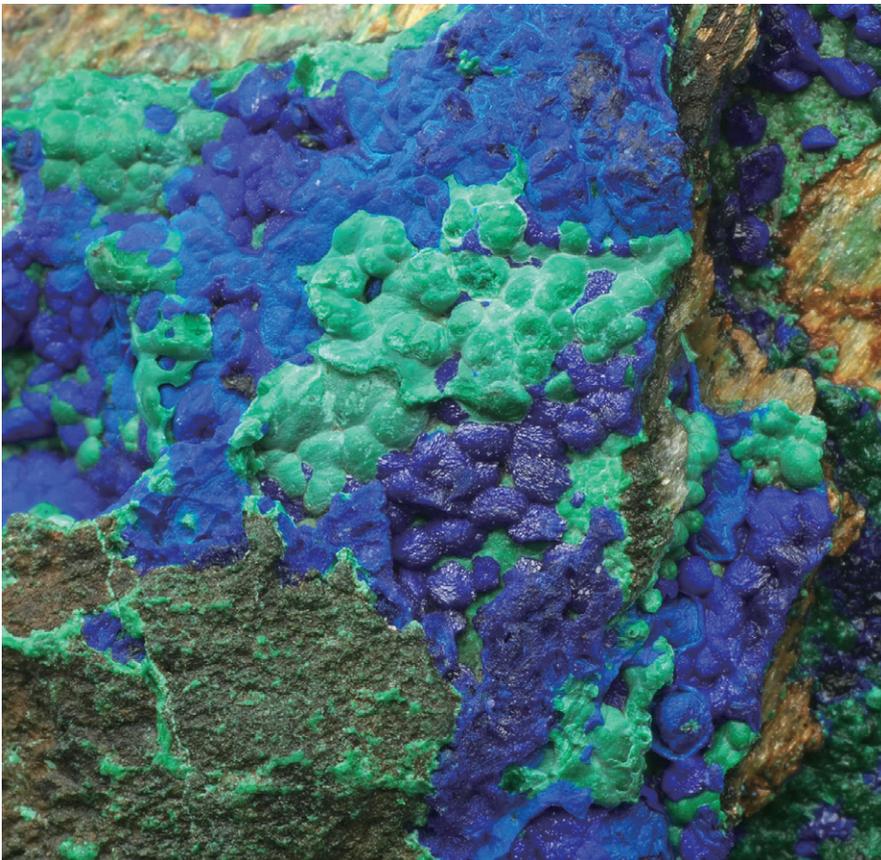
19 珉化木.



20 方解石 (鐘乳石).



21 菱マンガン鉱.



22 藍銅鉱と孔雀石.



23 天青石.



24 かんらん石.



25 藍晶石.



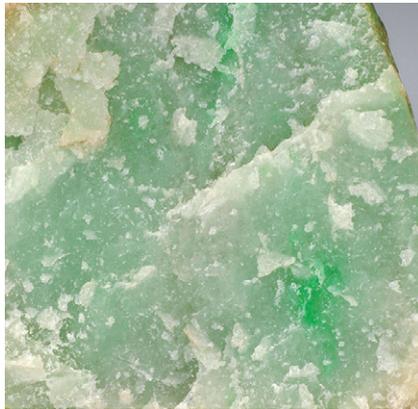
26 トパーズ.



27 鉄電気石.



28 緑柱石.



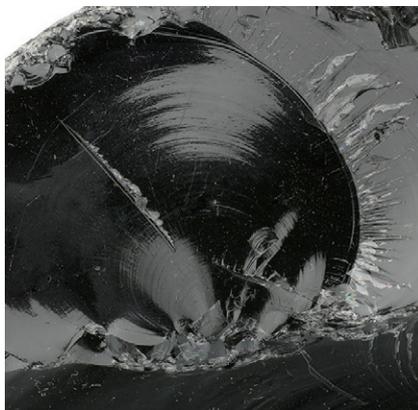
29 翡翠輝石.



30 普通輝石.



31 滑石.



32 黒曜石.



33 褐炭.